

令和8年度 磐田市行政経営審議会 第2回分科会 議事録

【日 時】 令和8年5月 15 日(金) 15 時 00分から 17 時 00分まで

【出席者】

●委員 4名

小泉祐一郎 委員 高橋良和 委員 藤森新五 委員 矢田央生 委員 (小村隆史委員は欠席)

●事務局 7 名

企画部長 自治市民部長 建設部長 環境水道部長 政策推進課課長・グループ長・主任

【内容】 第3次総合計画前期基本計画(素案)の「分野6 都市基盤・環境」についての検討

第3次磐田市総合計画前期基本計画(素案)についての検討

【分野6 都市基盤・環境】

●計画全体に関すること についての主な意見

- ・全体を通じた意見になるが、アウトプット指標とアウトカム指標が混在している。政策により、アウトカム指標の設定が難しいものもあると思うので、やむを得ないと考えられるが、できれば、アウトカム指標で統一して設定できるとよい。
- ・巻末資料に指標の説明や設定根拠は載せたほうがよい。
- ・指標については、個別計画から持って来たりと思うので、設定根拠は個別計画等で確認する形式でも問題はないと思う。
- ・「客観指標」について、例えば「地籍調査の進捗率を 81%から 82%にする」とあるが、これを見ても市民は良く分からない。市民が見て分かりやすいと感じるものが良い。
- ・「客観指標」は行政側の進捗管理の話で、市民に訴求するのは「well-being 指標」という分けでもよいと思う。
- ・基本政策の各ページに客観的指標を載せているが、これには強く反対する。これは古いやり方。政策は一対一対応でないため、理屈上あっていない。指標は巻末に一覧表示にして、これらの政策を推進して、得られる代表的なアウトカムの指標を載せればよい。ただ、ひと昔前にはこれが流行っており、頻繁に変更しても良くないので、こういう形式でもよいと思うが、再度検討を。
- ・「政策の背景」の表題が内容とあっていないところが多くあるので、再度見直したほうがよい。
- ・誰目線でこれをつくっているのか。絵があって、イメージが湧くとかの方が分かりやすい。
- ・最終的には、市民がこれを見てがんばりたいと思うかどうか重要な視点ではないか。

●基本政策1 地域の特性に応じた土地利用の推進 についての主な意見

- ・「政策の背景」について。「良好な景観の維持・形成」のところは、記載内容は良いが、表題が古い。景観については、文化庁も「維持」から「活用」に転換しているので、表題の表現をもう少し検討すべき。
- ・「施策と主な取組」について。
「(2)景観に配慮したまちづくりの推進」は景観の活用を意識した表現に変更したほうがよい。
「観光地エリア景観計画の策定による地域資源を生かしたまちなみづくりの推進」の「まちなみづくりの推進」は「まちなみの整備」のほうがすっきりしてよい。
- ・「共創への取組」で、事業者に対し、「・土地利用に関する法令を遵守しよう」とあるが、これは当たり前の話なので、専門性を生かしたまちづくりに関与してもらうような表現に変えたほうがよい。

●基本政策2 道路インフラの整備と新たな地域公共交通の構築 についての主な意見

- ・指標の「公共交通利用者数」について、目標値が「±0人」となっており、ほかのところと表記の仕方が異なるので、合わせたほうがよい。
- ・「政策の背景」について。「地域公共交通の現状」のところの表題について、現状が課題という意味だと思うが、もっと適切な表現があれば、変更したほうが良い。
- ・年々バス利用者が減っている。路線が減ると利用者が減るという悪循環。デマンドタクシーやボランティア輸送は小回りがきき重要だが、運転手の確保が問題になってくるので、そういった部分も含めて考えていく必要がある。
- ・将来的には自動運転になると思う。海外はやっている。そういう方向を考えていかないといけない。
- ・ライドシェアへの取組みについては、四日市市は自治会でやっている。半分は市が助成しているが、市がやっては依存してしまうのでダメで、地域がやりたいと思っていることへの支援が良い。
- ・タクシーがなくなってしまうのは困るので、タクシーに担ってもらうのもいいと思う。
- ・バスについては、病院線など最低限は確保できるとよい。
- ・藤枝で市民病院の患者がバスを使っている姿はあまり見かけない。総合病院にバスで行く需要はあるのか考えてみてもよいのでは。
- ・かかりつけ医と買い物ができる場所にいける、コンパクトシティの考えを推進するのが大事。
- ・富山はコンパクトシティに取り組んでおり、高齢者は100円で駅に行けるよう、交通事業者へ支援している。どちらかというところ、交通政策というよりはまちづくり政策かもしれない。ただし地形の問題(放射線状じゃない)もあるので磐田では難しいかもしれない。

●基本政策3 自然と調和した良好な住環境の整備 についての主な意見

- ・指標について、「緑化の推進団体数」があるが、これでは、団体数を増やすことが目的になってしまうので、植樹の面積や本数などのほうがいいのではないか。
- ・背景の「空き家の解消」は間違い。空き家は問題じゃない。日本は新築主義なので、空き家となるのは必然。空き家の管理が問題であり、表題が合っていない。表題は「空き家の増加」でよい。
- ・同様に背景の「公園の整備」も違和感がある。背景として辻褄が合う表現に見直すべき。
- ・施策(3)の3つ目の取組「空き家バンクの運営等、……」の「空き家バンクの運営等」は必要か。今やっていることの延長のように見えてしまうので、もっと広がりを持たせるために載せないほうがよい。
- ・現在は、空き家バンクを活用しないルートもトレンドになっている。小学校区には子育て世帯が入ってほしいので、地域の人を選別したりしているようなところもある。地区の人、PTAの人がやっている例もあるため、「空き家分野で不動産関係事業者が活躍しやすい環境の整備」の不動産関係事業者に「等」を入れた方がいい。空き家バンクは空き家バンクで必要ではあるので、共創の取組にあるのはいいと思う。
- ・公園の整備とあるが、今の時代遊ぶ人はいるのか。重要性を改めて検討してみてもよいのではないか。

●基本政策4 安全・安心な上下水道サービスの提供 についての主な意見

- ・耐震化率について、指標には避難所までの耐震化率 4.8%を 46.8%にすると掲げているが、政策の背景では、水道管路全体の耐震化率 25.4%と記載があり、一見すると整合性が取れていない気がする。避難所の管路と全体の耐震化率とどちらがいいのか再度検討すべき。
- ・能登半島地震を踏まえ、上水と下水を一体的に進めていく方針は理解できる。優先順位を決めて取り組むことを市民に分かりやすく説明することが大切。

●基本政策5 環境にやさしい社会の確立 についての主な意見

- ・「自然観察会に参加した人数」は指標としてどうかと思う。この政策では、温室効果ガスとごみの資源化率の大きなアウトカム指標を設定しているため、これでもよいと思うが、再度検討を。
- ・再生可能エネルギーというと磐田市の場合は太陽光、風力あたり。電力会社に払っているだけでは外に出ていくだけなので、エネルギーを地産地消して地域内で循環させていくのは大切。
- ・ごみ排出について、高齢者補助の取組みは。他市町では、高齢者がごみ出し券を買って、お手伝いをしてもらうという取組みがあった。そういう活動の推進も進めていけると良い。
- ・空き家の雑草の関係で、商売として成り立っている人がいる。ボランティアや所有者の意識啓発だけで解決するのではなく、そういった商売として成り立たせるといった視点もあるといい。
- ・こどもたちへの環境教育は大事。その世代が将来の磐田を担うため、早いうちから意識させる。
- ・施策(2)のリード文は、「多様な生態系を守るため、市民や事業者、団体等との連携により、豊かな自然環境の保全・継承を目指します。」のほうがスッキリしてよい。